

北九州市若松区南海岸通り地区における地域住民との協働及び歴史的建築物を中心としたまちづくりの展開に向けた調査

～ 若松南海岸通りの歴史的建築物を活かしたまちづくり ～

報 告 書

平成16年 3月



特定非営利活動法人 北九州COSMOSクラブ

目 次

1 . 活動の背景	1
2 . 活動の経緯と目的	2
2 - 1 これまでの経緯	2
2 - 2 活動の目的	2
3 . 活動の内容	3
3 - 1 活動の経緯	3
3 - 2 活動の内容	4
a . マップづくり	4
b . 建物調査・図面化	5
c . 模型づくり	7
d . 通行量調査	8
e . 住民意識調査	9
f . 歴史調査	11
g . 地元まちづくりグループとのかかわり	13
h . 展示会開催	14
i . テーブル会議開催	15
4 . 活動の成果	16
5 . 今後の展開	17
6 . 活動のポイント	18

1. 活動の背景

北九州地区は明治維新以降、昭和40年代まで石炭産業で隆盛を極めていた。

三井・三菱など中央の大資本や麻生・貝島などの地元の資本が一気に石炭産業に集中し、筑豊炭田は大小多くの炭鉱が採掘を始めるにともない石炭の輸送や販売も活発におこなわれるようになった。それにより筑豊炭田を後背地に持つ若松が石炭の積出港として大きな役割を持つことになった。筑豊炭田は我国の石炭の約半数を産出するようになり、若松港には筑豊炭の半数が送られ石炭の積出港として日本一になった。

また明治30年代に、石炭産地に近く、原料・製品の輸送に便利な洞海湾沿いに官営八幡製鉄所が建設され、北九州が日本の四大工業地帯の1つとして大発展をする基となった。

若松には石炭景気を当て込んで各地からたくさんの労働者が集まり、街の様子も活気あふれるものとなった。この当時の活気のもとには労働者によるものであり、彼等は決して裕福な暮らしをしていたわけではないが、若松の経済を支える大きな力であった。

しかし昭和40年代に入ると石炭から石油へエネルギー源が移行し、石炭で栄えた若松は衰退の一路をたどることになる。繁栄を極めた当時の建造物や利用価値のないものは次々と廃止され壊され、現在では繁栄した当時の面影を伝えるものはほとんどなくなった。

しかし若松の住民は「繁栄の歴史を残さねばならない」、「子供達に語り継がねばならない」と強く感じている。石炭の積出港としての繁栄の歴史が、この町のアイデンティティである。若松南海岸通りには石炭積出港として繁栄した時代の近代建築物がまとまって現存しているが、これらの建物群も老朽化や機能的な立ち遅れ等で今やその存続が危ぶまれている。

COSMOSクラブは、地元住民の方々と協働でこれらの建築群を生かしたまちづくりを進めている。

2. 活動の経緯と目的

2-1 これまでの経緯

若松洞海湾沿いの南海岸通り地区には、炭坑産業華やかなりし頃の建物が多数残されている。これらの建築物群は、若松南海岸通りのまちなみを形成するものであり、歴史を語る近代建築群として重要な建物であるが、存続が危ぶまれている。私たち「特定非営利活動法人 北九州COSMOSクラブ」では、取り壊し等が行われる恐れもあると聞き、現存する近代建築物を次世代へと継承するために、2000年よりこの文化遺産の保存活動や、調査・研究その建物の図面化などを行ってきた。

2001年には活動の中間報告展示会を若松区役所の市民ホールで行い、若松南海岸通りに残る歴史的建築物の存続する意義や価値を、地元に応えようとしてきた。

中間報告展示会後も、歴史的建築物の調査・図面化の活動を継続してきたが、地区の市民団体との交流をとおして、2003年には若松南海岸通り周辺の生い立ちや成り立ち等を整理し、まちづくりのデータベースの1つとして歴史調査・地区現況模型の作成・この地区に生活をする住民へのアンケート（意識）調査、人や車の交通量調査などを実施した。

今回行った地域の建物模型や様々な調査結果をパネル化し、区役所の市民ホールで、住民の皆様へ発表展示を行うとともに、この地区に対する愛着や誇りを持って頂けるよう若松南海岸通りの歴史的建築物の存続意義や活用方法などについて、地区住民の方と意見交換会（テーブル会議）を行った。

2-2 活動の目的

今回の活動は、以下のことを考えている。

- ・ まちづくり活動を続けている地元団体と交流を図り地域の意識を把握する。
- ・ 私たちCOSMOSクラブの行ってきた建物調査・研究・図面化などを通じて建築技術者集団としての意見や、新しい視点から若松南海岸通りを中心としたまちづくりを提案する。
- ・ 今回の活動の締めくくりであるテーブル会議の開催により参加者との意見交換をし、ここに残っている近代建築群を活用しながら、『人が行き交うにぎわいのあるまちづくり』を行っていき、きっかけを探っていく。

3. 活動の内容

3-1 活動の経緯

COSMOSクラブがおこなった、まちづくりに関する活動を以下に示す。

	活動内容	期 間	備 考
a	マップづくり	2000.3～2000.6	
b	建物調査・図面化	2000.8～2000.11…① 2001.12～2001.4…② 2003.2～2003.8…③	①旧麻生鉱業ビル ②石炭会館 ③大正ビル
c	模型づくり	2003.11～2004.2	
d	通行量調査	2003.12～2004.1	
e	住民意識調査	2003.12～2004.1	
f	歴史調査	2003.12～2004.1	
g	地元まちづくりグループとのかかわり	1998.10～	
h	展示会開催	2004.2.19～2.28 2004.3.6	
i	テーブル会議開催	2004.3.6	

調査範囲



3-2 活動の内容

a. マップづくり ～ 若松まちあるきMAP ～

調査の概要：平成12年3月より約4ヶ月に渡り対岸の戸畑から若松南海岸通り周辺の建物の用途の調査を行い、色分けマップを作成した。

〈 調査日程 〉

2000/3/9 ～ 2000/5

戸畑・若松の 地図ベクトルデータを作成したもので現地調査を行った。

参加人数：のべ89人



2000/6/30 最終色塗りデータ完成



b. 建物調査・図面化

① 旧麻生鉱業ビル

2000/8/12	事前調査・打合
2000/8/19	〃
2000/10/28・29	第一回旧麻生鉱業ビル実測調査 時間：9：30～17：00 参加人数：18人（延べ人数）
2000/11/11・12	第二回旧麻生鉱業ビル実測調査 時間：9：30～17：00 参加人数：15人（延べ人数）
2000/11/18・19	第三回旧麻生鉱業ビル実測調査 時間：9：30～17：00 参加人数：15人（延べ人数）
2000/11/20	作図開始
2000/11/20	図面完成



旧麻生鉱業ビル



旧麻生鉱業ビル



② 石炭会館

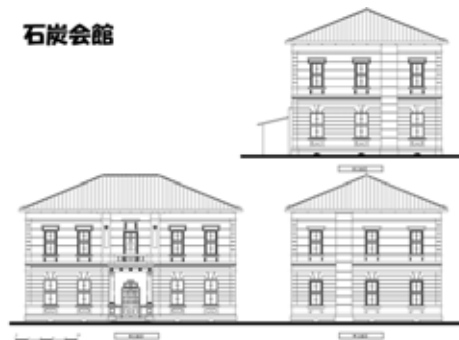
2001/12/15	第一回石炭会館実測調査 時間：9：30～17：00 参加人数：14人
2001/12/16	作図開始
2001/ 4/16	図面完成



石炭会館



石炭会館



③ 大正ビル

2003/ 2/ 8 第一回大正ビル実測調査

時間：9：00～17：00

参加人数：15人

2003/ 2/15 第二回大正ビル実測調査

時間：9：00～17：00

参加人数：15人

2003/ 2/16 作図開始

2003/ 8/ 8 図面完成



大正ビル



大正ビル



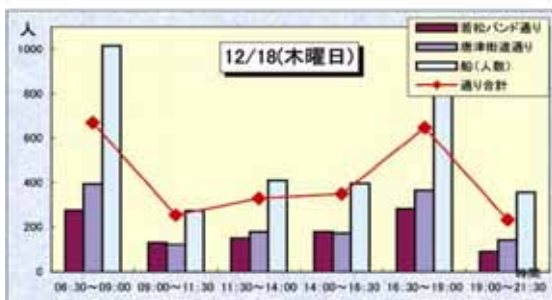
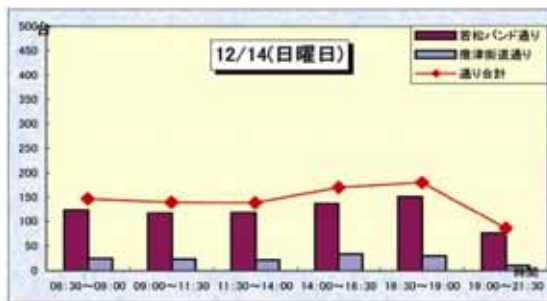
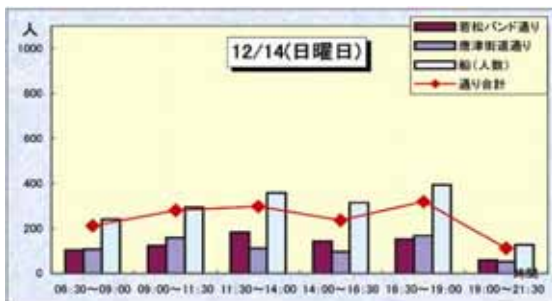
c. 模型づくり

現在の南海岸通りの様子を把握するために数回の現地調査を基に、模型づくりを行った。



d. 通行量調査

通行人数調査



通行量調査 人の通行量の推移からみて、歩行者の大半が若戸渡船の利用者であることが推測されます。また渡船は、平日（12/18 木曜日）のグラフから通勤、通学に多く利用されていることがわかります。通り別の通行量では、平、休日ともに朝夕に本町通りが若干多く、昼間に南海岸通りのほうが増えています（特に休日）。これは周辺を散策されるひとたちでしょうか。車の通行量は、南海岸通りの通行が多く、バスの利用者と渡船利用者の送迎の乗用車が多くみられました。渡船利用の歩行者のための本町通り、散策者、車のための南海岸通りといえそうです。



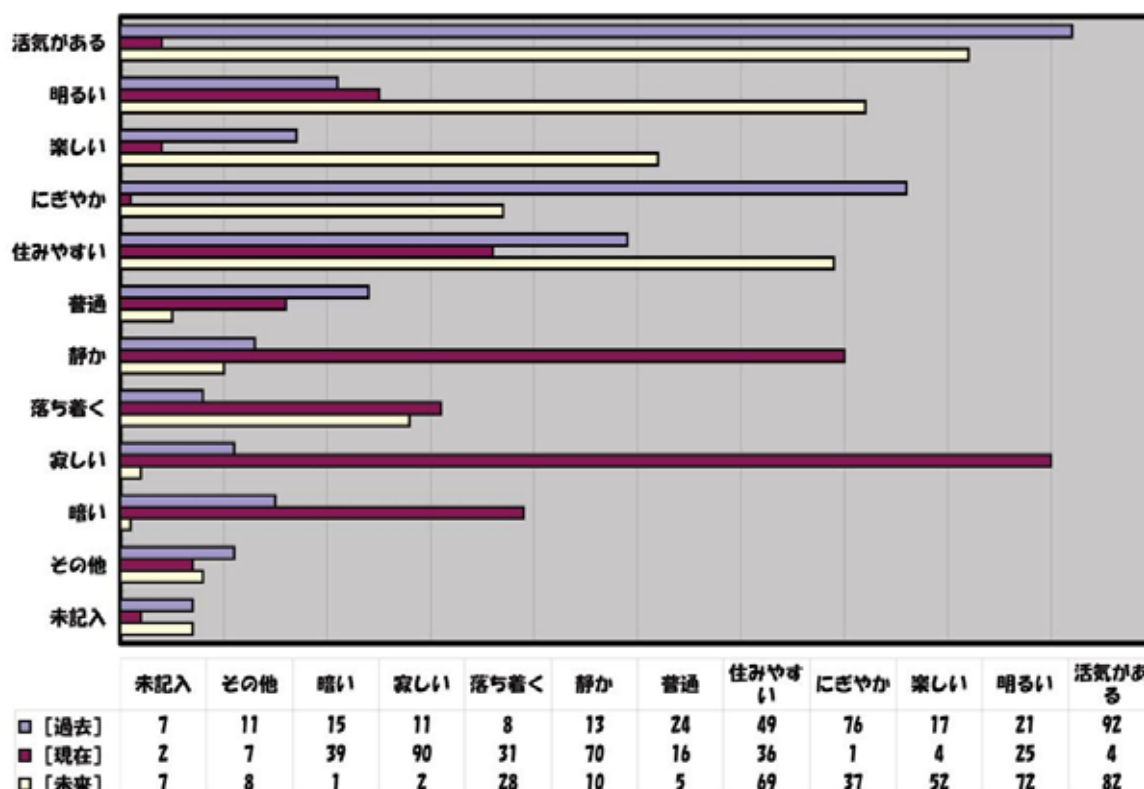
交通量調査 人口は、五市合併をピークに減少するものの、昭和 57 年（1982 年）以降は 9 万人前後で推移しています。それに対し、若戸大橋を利用する車輛は、開通以来順調に増加しています。一方、若戸渡船利用者は若戸大橋開通後年々減少しています。一時、昭和 52 年（1977 年）からの 10 年間、横這い状態がみられたものの、橋が 4 車線に拡幅後、利用者減少に歯止めがかからない状況です。このことは、同時に若松南海岸通り周辺の交通量（人・車）の減少そのものにも影響を与えているといえるでしょう。

e. 住民意識調査

調査対象：本町住民のみなさん
 配布回収方法：本町住民のみなさん
 調査時期：平成15年12月27日 配布
 平成16年1月27日 回収
 回収結果：配布数 280
 回収数 194
 回収率 70%

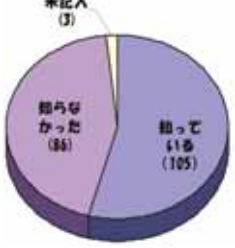
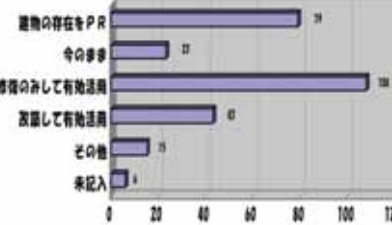
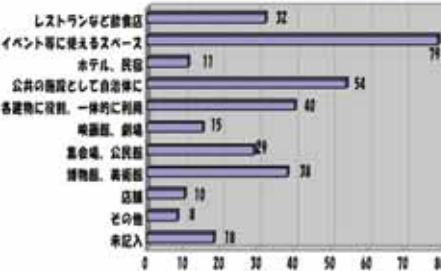
☆アンケートの回答率が非常に高い。これは本町地区がよい近隣関係を保ち、同地区に対する思いが強いと考えられる。また、配布に携わって頂いた隣組長様の努力の賜物と考えられます

「若松南海岸通りを生かしたまちづくり」に関するアンケート .若松の過去・現在・未来についての印象を教えてください



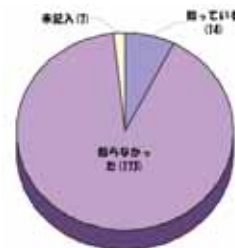
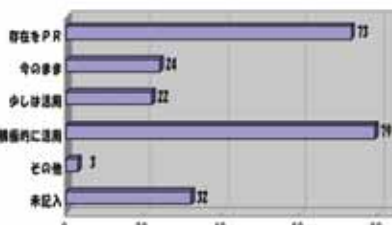
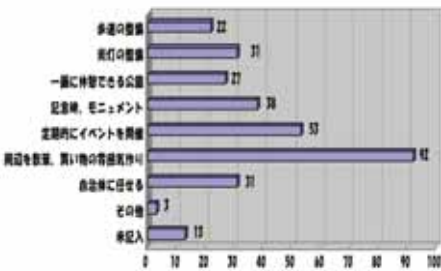
☆ 未来には現在にない活気があり明るく楽しい街を希望している。また現在・未来共住みやすいとの回答が多く見られる

.若松南海岸通りの建物群について伺います

若松南海岸通り建物群をご存知でしたか	これからどのようにすればよいと思いますか	活用するとすればどのような活用がいいと思いますか
		

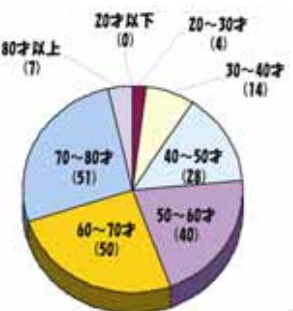

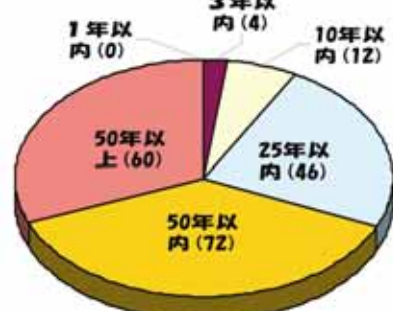
☆ 若松南海岸通りのPRと有効活用が多く見られ、その活用法は公共の利用という意見が多く見られる

.唐津街道について伺います

唐津街道をご存知でしたか	これからどのようにすればよいと思いますか	活用するとすればどのような活用がいいと思いますか
		

☆ 街道のPRと積極的活用が多く見られ、その活用法は全体を散策する、定期的なイベント等が多く見られる

.最後にあなたの事をご記入下さい

回答者年齢	回答者性別	回答者居住年数
		

☆ アンケート回答者は、長年本町地区に住んでいる人が多く見られる

f. 歴史調査 ～若松の港町、街道としての状況（江戸時代）～

江戸時代初期

筑前藩主黒田長政が入国（慶長5年、1600年）後、中ノ島に城が築かれたが、元和元年（1615年）徳川幕府により一国一城の令がでて壊された。その後、洞の海には藩の飛び船が常時数十隻つながれ、急用に備え港口には番所が設けられていた。これが州口番所であり人、物の藩への出入りを取り締まった。

巡見使

巡見使とは、将軍の代替りごとに幕府から五畿七道に派遣された政情、民情の視察使である。筑前領では、徳川15代将軍のうち3代～6代と8代～12代の時期に計9回（1627年～1838年）の視察が記録されている。筑前領にはいる巡見使は、海路まず若松に着き、船で洞海湾、江川をぬけて芦屋に出て赤間、青柳をへて福岡に行くのが予定の経路だった。使番一名に小姓組番、書院番二名の三名一組として各大名領へ出された。各領主、役人の非違または民情を視察して報告するのが役目だから、各藩では巡見使の扱いには心を配った。若松では藩の家老格が出迎え、藩の接待役、案内役が応接にあたった。

宿駅としての若松

幕府は江戸を中心に東海道・中仙道・奥州街道・日光街道・甲州街道の五街道をととのえ、それを補う脇街道をもうけた。豊前小倉から肥前長崎にいたる長崎街道は、九州唯一の脇街道である。筑前では、長崎街道の六宿と内宿二十一宿が定められ、若松は内宿の一つであった。若松が宿駅であったということは、宿駅の条件である人馬継所があったと思われるが、その設置位置や設置年月日が不明である。しかし、大阪と筑前の海路による交通や巡見使の経路から、若松が宿駅としての機能を備えていたことは十分に伺える。

唐津街道は若松、芦屋、赤間、畦町、青柳、箱崎をへて博多、福岡へ出、姪浜、今宿、前原をへて唐津にいたる街道であり、長崎街道が東往還と呼ばれるのに対して唐津街道は西往還とも呼ばれていた。起点については小倉という説もある

福岡藩修多羅米蔵跡について

- ・ 黒田藩の遠賀、鞍手、嘉摩、穂波の4群の貢米の集積地として同藩により芦屋に米蔵が設置された。(1700年)ここより廻船で大阪の蔵屋敷へ米を送った。
- ・ その後、芦屋州口が年々浅くなり、船の往来が困難となってきたため米蔵は修多羅村(現在若松区修多羅)に移設された。(1717年)
- ・ 黒田藩での貢米の大阪への積出港は横浜(糸島郡今宿村)と若松の2ヶ所だけであり、貨幣獲得のための貢米のうち半数以上(約8万石)が若松に集積されていたことになる。
- ・ 遠賀郡明細張(天保6年、1836年)によると、「若松港には御用船が12艘、商船73艘、川船8艘、御船手屋敷が38軒あった」との記述があり、江戸時代から若松が港として栄えていたことが伺える。ちなみに米の流通経路は、堀川開通以前が、遠賀川→芦屋→江川→洞海湾であり、1762年の堀川開通以後 遠賀川→堀川→洞海湾となった。

伊能忠敬の足跡

伊能忠敬が測量のために若松地方にきたのは、文化8年(1811年)7月である。66歳であった。7月22日、黒崎宿を出立して測量班を指揮して熊手、本城、童子丸、修多羅など各村を測量し、同日若松村の本陣庄屋庄五郎方に泊まり翌23日、24日と手分けして海辺と陸の測量を行った。恵比須神社境内には、忠敬が海上旅行者に方位を示し、航海の安全を祈って奉納した方位石が残されている。

考察

以上のように、他藩と隣接した港といった地理的条件から洲口番所が設置され、海路大阪への交通、米の積出拠点の港としての役割は大きなものであったことが推測される。ただ唐津街道としては唐津から赤間までは参勤交代の経路としての記録があるがそれより東側の芦屋、若松では参勤交代での利用はないようである。しかし米の集積地や海の要衝地ということからかなりの往来があったといえるのではなかろうか。

若松は石炭産業によっておおきな発展を遂げてきた町であるが、これらのことから、若松はそれ以前の江戸期においても、これらの発展の礎となる条件が十分に整っていたことが伺えるのである。

参考文献 芦屋町誌(昭和47年発行)
若松市史(昭和34年版)
子供のための若松郷土誌 港・まつり・五平太ものがたり
(平成12年3月発行) あらき書店

g. 地元まちづくりグループとのかかわり

建築士会が平成10年にテーマ「住民、企業、行政のパートナーシップ（協調、協労）によるまちづくり」のまちづくりセミナーを開催した。その折、若松区役所を通じて、あるいは知人を通じて、地元まちづくりグループと協働で活動するきっかけとなった。シンポジウムのパネラー、コーディネーター、協力者の皆さんの若松まちづくりに対する熱い思いを知ることができた。

- わかちく資料館（石炭関連資料の展示）
- 真己人プロジェクト（竹炭の生産を通じて、村おこしやボランティア）
- 清水憲一教授（近代経済史の研究者）
- 若松商店街連合会「おかみさんの会」
- 若松商店街連合会「若松南海岸通りの歴史と景観を考える会」

COSMOSクラブのメンバーは建築士会会員も多数いて、若松の近代建築の現況を知るにつれ深く興味を抱くこととなった。

平成12年 「若松南海岸通りの歴史と景観を考える会」の会員となる。

平成13年に開催の「旧古河鉱業若松支店の活用」に関するワークショップに参加して地元団体と活用について検討した。

- 若松で音楽を聴く会
- グローイング・アップ！ワカマツ
- 若松の自治会

平成12年、13年、14年 地元住民のお手伝いをしようと、調査・研究・図面化の活動をする。

平成15年度はアンケート・調査活動、模型・パネル展示発表、テーブル会議を通じて、さらに多数の地元活動グループと関わりを持つことが出来た。

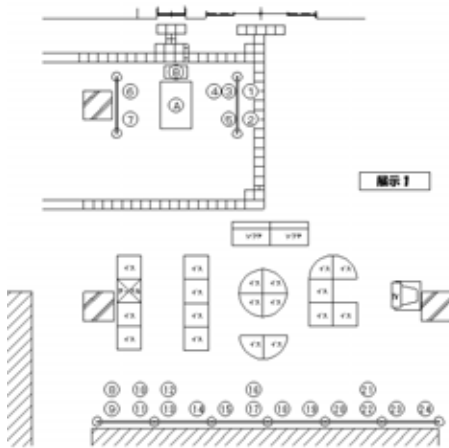
- 若松バンドの会の皆さん
- まちのカルシウム工房 竹内氏
- 本町一区の区長 野村氏
- 若松探検隊（ホームページに掲載）中山氏
- 歩く唐津街道 泉氏
- 郷土史研究家 若宮氏

まちづくり団体とのコラボレーションを重ねていき、多くの情報の収集、情報の交換が出来た。

h. 展示会開催 ～ 若松南海岸『歴史と近代建築探訪』～

【展示1】 日時：平成16年2月19日～2月28日
会場：若松区役所 1階 ロビー

パネル配置図

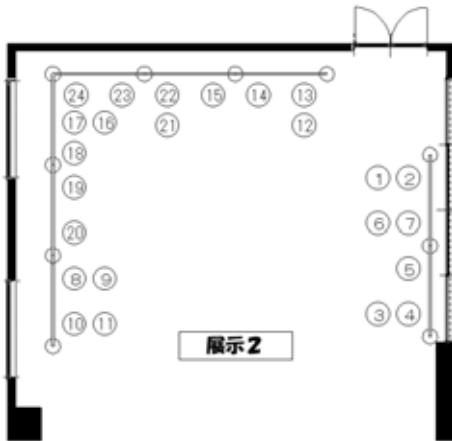


会場風景



【展示2 シンポジウム時】 日時：平成16年3月6日
会場：若松中央市民福祉センター 多目的ホール

パネル配置図



会場風景



● 展示項目

- | | | | |
|----------------|-------------------|-------------------------------|-------------------|
| 1. まちあるきMAP | 2. 展示タイトル | 3. 今までの活動について | 4. 活動時の写真 |
| 5. コスモスの紹介 | 6. 交通量調査グラフ・考察 | 7. 人口・石炭産出量・若戸渡船・若戸大橋交通量推移グラフ | 8. 年表 |
| 9. 伊能忠敬地図 | 10. 大正時代若松南海岸付近地図 | 11. 大正時代若松南海岸付近商店広告 | 12. 石炭会館 カラー図面 |
| 13. 石炭会館 説明 | 14. 石炭会館 平面図 | 15. 石炭会館 平面図 | 16. 旧麻生鉱業ビル カラー図面 |
| 17. 旧麻生鉱業ビル 説明 | 18. 旧麻生鉱業ビル 平面図 | 19. 旧麻生鉱業ビル 立面図 | |
| 20. 旧麻生鉱業ビル 歴史 | 21. 大正ビル カラー図面 | 22. 大正ビル 説明 | |
| 23. 大正ビル 平面図 | 24. 大正ビル 立面図 | A. 模型 | B. アンケートBOX |

i. テーブル会議開催

地元のまちづくりグループと協働でシンポジウムを開催した。

日 時：平成16年3月6日（土）
場 所：若松中央市民福祉センター 多目的ホール
参加者：52名

☆第1部 13：00～14：30

1. 地元のまちづくりグループの活動報告と今後の提案
2. 記録映画「うつりゆく若松今昔」上映

☆第2部 15：00～16：30

COSMOSクラブ主催のテーブル会議を開催
テーマ：『近代建築が生きづく街の風景』

★意見発表者

- ・若松南海岸通りまちづくり実行委員会 委員長 山口 久
- ・NPO法人 まちのカルシウム工房 理事長 竹内 祐二
- ・NPO法人 北九州COSMOSクラブ 会長 西村 博道

★コーディネーター

- ・九州国際大学経済学部教授 清水 憲一

☆司会

- ・NPO法人 北九州COSMOSクラブ 会員 木村富士子

1. COSMOSクラブ会長 西村博道より、活動報告及び今後の提案を行なった。
2. コーディネーターを中心にして意見交換がおこなわれた。
一般参加者からも多数の質問や意見が出され、熱のこもったものとなった。
3. コーディネーターのまとめとして
 - ① 渡し場、旧唐津街道、近代的建築群の3つの要素をあわせて、まちづくりを考えることはこれまでの活動の考え方から一歩前進したものと言える。
 - ② 地元のまちづくりグループとCOSMOSの提案をミックスさせながら、まちづくりを具体的に考えていく必要がある。
 - ③ COSMOSクラブの活動がこれで終わるのでなく、これを出発点にしながらその他の地域も含めて若松にどういうものが残っているのかを調査する必要がある。地道な調査活動を前提にして、まちづくりがオーソドックスな形で進められていくということを気づかさされた。



**のぞいてみよう 昔の若松
考えてみよう これからの若松**

第一部 若松（東部地区）これからのまちづくり計画発表会
と若松の昔の映画の上映のお誘い

日 時：平成16年3月6日（土）13：00～14：45
会 場：若松中央市民福祉センター
※ これからの若松について一人でも多くの人に、
僕たち私たちの考えを伝えたいのです。

記録映像：「うつりゆく若松今昔」

主 催：若松南海岸通りまちづくり実行委員会
協力・後援：若松区役所・若松/ノドを考える会
若松南海岸通りの歴史と景観を考える会・まちのカルシウム工房
NPO法人九州COSMOSクラブ

第1部 チラシ

語り合おう！
これからの若松

お茶、お菓子
付せて可

第2部 テーブル会議

近代建築が生きづく街の風景

日時 平成16年 3月6日 土曜日 15：00～16：00
会場 若松中央市民福祉センター

テーブルを囲んで、地元市民の皆さんにも参加していただけます。
参加される皆さんにも、ご意見を聞き出されたいと思っています。

本音の本音 自由討論 さて結論は？

コーディネーター
清水 憲一
九州国際大学 経済学部教授

主 催 NPO法人北九州COSMOSクラブ
協力・後援 若松南海岸通りまちづくり実行委員会 若松/ノドを考える会
若松南海岸通りの歴史と景観を考える会 NPO法人まちのカルシウム工房
(注) 福井県建築士会北九州支部

第2部 チラシ

4. 活動の成果

近代建築の調査の為に掛かった活動がいつしか建物の保存というとても方向になって行ったのはこの海岸のすばらしい景観が残っていたからである。何とかこの景観を壊すことなく、また巧く活用しながら残していく方法はないものかと色々議論した結果、まずはきっかけづくりだということになった。

我々は今回の事業のために以下の活動を行った。

1. 近代建築の調査、および図面化
2. 若松の歴史調査
3. 現地調査による現況模型作製
4. 地元住民の意識調査
5. 若松南海岸通り周辺の交通量調査

上記の事柄を踏まえて、テーブル会議を開催し以下の三つの提案と地域住民との意見の交換を行った。

- ① 南海岸通りの近代建築物の活用
- ② 本町通り（旧唐津街道）繁栄当時を想わせるまちなみづくり
- ③ 海の駅をイメージした渡し場の整備

我々の活動の集大成とでもいうべきテーブル会議は、予想以上に多数の市民の方の参加を頂いた。会議の席上では、多数の貴重なご意見をいただきこれからの課題の多さを痛感した。

また、近隣住民の方に対するアンケート調査においても280通配布して194通の回収、約70%と言う高い回収率だった。調査結果を見てもらうとわかるように「建物を保存し有効に活用すべきだ」と言うご意見が多かった。

この事は、ひとえに市民の方の関心の高さを示す物であると思う。当初の目的であった「まちづくりのためのきっかけづくり」という意味では、成果があった。

●イメージパース



① 南海岸通りの近代建築物の活用



② 繁栄当時のすずらん灯を活かしたまちなみ



③ 海の駅をイメージした渡し場の整備

5. 今後の展開

我々は、これまでに三つの建物の調査を行ってきたが、テーブル会議でも出ていたように若松にはまだまだ沢山の貴重な建物（近代建築だけでなく古い町屋も）が残っている事がわかった。

若松の歴史性を詳しく検証しながら、残された建物の調査を継続的に行っていきたいと思う。点から線へとつないでいき、さらに面へと広げ、それによって少しでもまちづくりに貢献出来るのではないかと考える。

既に我々が調査した建物の一つである大正ビルが大風に依る被害を受けて解体の憂き目に遭ってしまった。これらの建物は木造建築物が多く保存改修が非常に難しいのが現状である。古い建物の現状を踏まえつつ、我々の三つの提案の実現に向け以下に示すような具体的目標を掲げ活動を続けたい。

1. 残された近代建築及び町屋等の調査・データ化
2. 若松の歴史
3. アンケート結果に基づくまちづくりの継続
4. にぎわいのある街にするためのツールづくり
5. まちづくりの合意の形成

6. 活動のポイント

本活動における人材、資金調達、ネットワークや支援体制について以下に示す。

■ 活動の人材

- ・ COSMOSクラブの会員が中心となり、活動の支援者である行政、地元まちづくり団体を含めて「テーブル会議」に参加を呼びかけた。
- ・ 特に地域住民の方々にはアンケート調査を通じて、まちづくりの活動に協力して頂いた。
- ・ まちづくりの活動を進めるうえで、新たな専門家、個人の活動家及び地元の方々とのかわりができた事は、我々の今後の活動にとって非常に効果的であった。

■ 活動のための資金調達

- ・ 会員会費収入
- ・ 事業収入

■ 活動のネットワーク・支援

- ・ 若松南海岸通りのまちづくりに取り組んでいる「若松南海岸通りの歴史と景観を考える会」「若松バンドを考える会」等々。
- ・ まちづくりの活動を通じて専門家、及び行政の方々の助言・協力を得た。